1. 感染症への対応について

現代はグローバル化にともない、国外発症のウイルスや未知のウイルスの脅威にさらされています。団体責任者の方は少しでも体調に不安のある方には本人の健康回復と他の参加者への感染拡大を防ぐために、参加を見合わせ医療機関での受診や自宅療養されるようにご案内ください。

荒川クリーンエイド活動は野外での活動ですが、現場までの移動で公共交通機関を利用する場合には感染リスクが高くなる恐れがあります。活動後は手洗い・うがいの徹底もご周知ください。

◇ 荒川クリーンエイド・フォーラム（以下、「荒川クリーンエイド・F」）が推奨する対応 ◇

【参加者への注意喚起】

- **（事前）**活動当日朝の段階や活動へ向かう途中段階で体調に不安が生じた場合は、参加を見合わせるように事前に参加者へ周知してください。

【準備】

- 参加募集の広報時に上記の注意事項を明記されることをお薦めします。

>> インフルエンザに関する参考情報

- インフルエンザとは（ＮＩＩＤ 国立感染症研究所）
  https://www.niid.go.jp/niid/ja/kansennohanashi/219-about-flu.html

>> 新型コロナウイルスに関する参考情報

- 新型コロナウイルス(COVID-19) 関連情報ページ（ＮＩＩＤ 国立感染症研究所）
  https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ka/corona-virus/2019-ncov.html
- 家庭内でご注意いただきたいこと（ＮＩＩＤ 国立感染症研究所）
  https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000601721.pdf

2. マダニへの対応について

マダニは、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）等の感染症を媒介します。2015 年 2 月までに、西日本の 15 県から 5～8 月を中心に 110 人の SFTS 患者が報告されていますが、他の県でも SFTS ウイルスを保有したマダニが見つかっています。荒川クリーンエイド・F では、厚生労働省の情報に基づき、以下の対応を推奨します。これを参考に、各団体において対応をご検討ください。

◇ 荒川クリーンエイド・F が推奨する対応 ◇

【参加者への注意喚起】

- **（事前・現場で）**腕、足、首など肌を露出しないような服装を徹底してください。
- **（活動後、家で）**帰宅時に上着をそのまま家の中に持ち込まないで外観をチェック、はたくなどしてください。
  入浴時等に肌にダニが付いていないかチェックしてください。
  （※マダニは、血を吸っていない状態で 2～3mm、吸血すると 1cm 前後になります。）
- **（咬まれた場合の対処）**皮膚科で処置をしてもらいましょう。

【事前準備】

- 虫除け剤の使用を検討してください。（一般的な虫除け剤で、ツツガムシ、マダニ等の標記のあるもの）

>> マダニ、重症熱性血小板減少症候群（ＳＦＴＳ）に関する参考情報

- 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）について（厚生労働省）
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/sfts.html
- 「マダニ対策、今できること」　（ＮＩＩＤ国立感染症研究所）
http://www.nih.go.jp/niid/ja/sfts/2287-ent/3964-madanitaisaku.html

3. PM2.5 への対応について

PM2.5 とは、大気中に浮遊している 2.5μm（1μm は 1mm の千分の 1）以下の小さな粒子のことです。中国の PM2.5 よる深刻な大気汚染の発生を受け、日本の PM2.5 濃度も上昇し、健康に影響を及ぼすのではないかと心配されています。荒川クリーンエイド・F では、環境省の情報に基づき、PM2.5 について以下のような対応を推奨します。これを参考に、各団体において対応をご検討ください。

◇ 荒川クリーンエイド・F が推奨する対応 ◇

① 1 日平均 70μg/㎥超～140μg/㎥以下が予想される場合

（当日朝 5,6,7 時の平均値が 85μg/㎥超）

→※当日朝の平均値が 85μg/㎥を超える場合は、1 日平均値は 70μg/㎥を超えることが想定されます。

- 実施を取りやめる必要はありません。
- 参加者に以下の注意喚起を行ってください。
  - 濃度の状態
  - 呼吸器系・循環器系疾患のある方、小児、高齢者等は影響を受けやすいため、注意が必要なこと
  - 参加者に事故等が起こった場合に備え、医療機関、対応スタッフ等対応方法を検討しておいてください。
  - 一般用マスクの配布も検討してください。　（ただし、吸入防止効果は種類により異なります。）

② 1 日平均 140μg/㎥を超えることが予想される場合

- 実施を取りやめてください　（※これまで 1 日平均が 140μg/㎥を超えたことは一度もありません（2015.3.5 現在））

>> PM2.5 濃度を知るには　（速報値）

- そらまめ君（環境省大気汚染物質広域監視システム）
http://soramame.taiki.go.jp/Index.php

>> PM2.5 に関する参考情報

- 政府広報オンライン「PM2.5」による大気汚染
http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201303/5.html
- 微小粒子状物質（PM2.5）に関するよくある質問（Q & A）
http://www.env.go.jp/air/osen/pm/info/attach/faq.pdf

4. デング熱への対応について

デング熱の原因となるデングウイルスは、デング熱に感染した人の血を吸った蚊（日本ではヒトスジシマカ）の体内で増え、その蚊がまた他の人の血を吸うことで感染を広げていきます。感染してもすべての人に症状が出るわけではありませんが、高熱や関節の痛み、目の奥が痛くなるといった症状が 1 週間から 2 週間ほど続きます。荒川クリーンエイド・フォーラムでは、厚生労働省の情報に基づき、以下の対応を推奨します。これを参考に、各団体において対応をご検討ください。

◇ 荒川クリーンエイド･F が推奨する対応 ◇

【参加者への注意喚起】

- **（事前･現場で）** 腕、足、首など肌を露出しないような服装を徹底してください。
- **（症状が出た場合の対処）** かかりつけの医療機関などを受診してください。

【事前準備】

- 虫除け剤の使用を検討してください。

>> デング熱に関する参考情報

- デング熱とは（NIID 国立感染症研究所）
http://www.nih.go.jp/niid/ja/diseases/ta/dengue.html